テレビユー山形（TUY）

海と日本PROJECT in 山形県

一般社団法人海と日本プロジェクトin山形

海洋ごみ削減のためのアイディアと行動変容の促進

山形県は海流等の影響から全国トップクラスで海洋ごみが流れ着く環境となっている。この背景には県内を広く流れている”最上川”の影響も考えられる。海洋ごみの約8割が街から流れ出たごみと言われている中で、内陸部に住んでいる人々の意識及び行動変容を変えていくことが重要である。今年度は昨年度から実施しているWEB・SNS施策の山形県の観光キャラクター「きてけろくん」と連携した各種企画を連動させ、内陸部、沿岸部に関わらずごみ拾いを実施するきっかけとなる事業を展開。また、これまで調査を行ってきたホットスポットの調査内容から考える「海洋ごみ削減のための高校生アイディアコンテスト」を実施し、専門家と連携し高校生のアイディアを形にして、広く訴求していく。

2024年度 実施状況について

その他事業：スポGOMI、モニタリング調査の自治体連携・波及啓発モデル事業など

WEB・イベント行政連動行動変容モデル

概要 山形県の観光キャラクター「きてけろくん」と連携したごみ拾い行動変容モデル。実際にごみ拾いを実施して、その様子をSNSに参加者が投稿する「#きてけろくんと救おう」企画を実施。

目的 山形県内の内陸と沿岸部では海洋ごみ問題の理解度や取り組みについて地域的な差があり内陸部でも海洋ごみ問題を広く訴求すること。また、旅館からの協賛（宿泊券）を得ることで参加者メリットを設定し、実際にごみを拾いを行う行動変容を促進させることを目的とする。

アピールポイント 内陸部の行政（寒河江市）や企業（モンテディオ山形）とコラボすることで、ウォーキングごみ拾いの実施やSNS連携等により、広く事業の告知を展開した。

効果 指標とした数字：SNSでの稿数・協賛旅館数（1宿→5宿へ）・連携企画
検証方法：SNSでの確認（12月末日まで）
見られた成果：応募期間を早めに設定し投稿数増加・協賛宿数増加・
さくらんぼウォーク2024、モンテディオ山形と連携した企画

教育機関連携アイディアコンテストモデル

概要 これまで行ってきた調査結果を元に、教育機関（高校生）と連携して海洋ごみ問題削減のためのアイディアを検討・実施する。アイディアを考えるにあたり、海洋ごみ問題を知る現地視察や専門家との意見交換会を実施。

目的 次世代の海を担う高校生と連携して、海洋ごみの現状を学び、削減のためのアイディアを考える。そのアイディアを実施することで海洋ごみ問題を訴求し、特にポイ捨て行為の減少を目的とする。

アピールポイント 県内各地の4地域7チームの高校生が参加。内陸部や沿岸部のそれぞれが違う環境で育ってきた中で海洋ごみ問題を改めて学び、ポイ捨て行為の削減の手法を検討。

効果 指標とした数字：各エリア4地域の4校以上高校生チームの参加
見られた成果：現在発表に向けて専門家との意見交換会中。
来月にアイディアコンテスト発表会を実施予定（11月現在）

海ごみゼロウィーク（清掃活動）

清掃活動参加人数 691人　**箇所数** 6箇所

アピールポイント 沿岸部や内陸部といった県内の幅広いエリアで清掃活動を実施した。参加者は大人世代はもちろん、小学生～大学生の各世代を巻き込むことができた。春の海ごみゼロウィーク期間にはWEB施策の開始や、期間外にも行政・企業と連携したごみ拾い企画を展開することで多く人々を清掃活動を実施。

メディア露出

メディア露出本数 56本（取材動画10月放送分まで）
150本（きてけろくん連携企画CM10月放送分まで）

アピールポイント 県内の清掃活動や各事業の取り組みについての動画を制作。また、WEBをメインに事業を展開しているWEB・イベント行政連動行動変容モデルのイベント告知CMを作成し、期間中にテレビCMを放送することで更なる広がりを目指している。

2024年度の課題とこれからの展望

山形県内の沿岸部と内陸部では海洋ごみ問題の認知度や理解度に差があることが課題である。2024年度はWEB・SNS施策として行政や企業とコラボすることで、内陸部への海洋ごみ問題の訴求することができた。一方で、内陸部の連携が希薄なエリア（最上・置賜）での海洋ごみ問題の認知を深めること、海洋ごみ問題を幅広い層にアプローチする新しいコンテンツを制作することが必要であり、次年度以降、この課題に取り組んで行きたい。